

業況DIは0.3ポイント上昇。電気機械は11.3ポイントの大幅上昇

～令和5年10～12月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和5年10～12月期の調査結果ご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況DIは上昇。前期3ヵ月後見込よりも上昇 ～
総合の業況DIは、前期比0.3ポイント上昇の▲25.3となりました。前期の3ヵ月後見込（▲26.3）より1.0ポイントの上昇となりました。

また、今後については3ヵ月後が現在比1.6ポイント低下の▲26.9（前期の半年後見込▲26.0）、半年後が同2.5ポイント低下の▲27.8の見込と、いずれも低下を見込んでおり、依然として続く物価高騰や人手不足の影響などにより厳しい状態が続いています。

2. 業種別特徴 ～ 業況DI、電気機械が前期比11.3ポイント上昇 ～

製造業の業況DIは前期比2.2ポイント上昇の▲24.9で、前期見込（▲23.3）より低下しました。中分類で見ると、一般機械（同7.1ポイント上昇の▲18.5）と電気機械（同11.3ポイント上昇の▲26.5）は上昇した一方で、輸送用機械（同3.7ポイント低下の▲18.2）は低下しました。

建設業の業況DIは同7.5ポイント上昇の▲0.8となり、前期見込（▲12.7）より大きく上回りました。

商業・サービス業の業況DIは同2.6ポイント低下の▲31.0で、前期見込（▲31.4）より上昇しました。内訳を見ると、卸売業が同5.9ポイント低下の▲32.0、小売業が同2.2ポイント低下の▲43.0、飲食店が同10.2ポイント上昇の▲9.2、サービス業が同6.9ポイント低下の▲21.2となりました。飲食店は大幅に上昇した一方、卸売業、小売業、サービス業は低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比0.5ポイント上昇の▲24.4（前期の半年後見込▲19.5）、建設業が同6.0ポイント低下の▲6.8（同▲16.9）、商業・サービス業が同2.1ポイント低下の▲33.1（同▲32.5）、半年後は製造業が同1.5ポイント上昇の▲23.4、建設業が同17.1ポイント低下の▲17.9、商業・サービス業が同2.0ポイント低下の▲33.0となるなど、今後の3ヵ月後、半年後の見通しでは、製造業は上昇の見通しである一方、建設業と商業・サービス業はいずれも低下を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 中規模企業はいずれのDIも上昇 ～

中規模企業の業況DIは前期比1.1ポイント上昇の▲20.0、小規模企業のDIは同0.4ポイント低下の▲31.3となりました。売上DIは中規模企業が同12.8ポイント上昇の4.5、小規模企業が同1.5ポイント上昇の▲19.7、採算DIは中規模企業が同10.2ポイント上昇の▲18.5、小規模企業が同2.5ポイント低下の▲33.5となりました。中規模企業の業況・売上・採算DIはいずれも上昇しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、5地区で上昇 ～

前期より業況DIが上昇したのは5地区（横浜、川崎、平塚、厚木、足柄上・西湘）、低下したのは3地区（横須賀、藤沢、相模原）でした。特に変化の大きかったのは足柄上・西湘地区（前期比11.0ポイント上昇）と藤沢地区（同21.1ポイント低下）でした。

一方、3ヵ月後は現在比で5地区（横浜、川崎、平塚、厚木、足柄上・西湘）が現在より低下すると見込んでいます。前期の半年後見込との比較では3地区（横浜、横須賀、平塚）が上回り、5地区（川崎、藤沢、相模原、足柄上・西湘）が下回っています。

半年後では現在比で横浜、藤沢、相模原の3地区で上昇、4地区（川崎、横須賀、平塚、足柄上・西湘）で低下、1地区（厚木）は変わらないと見込んでいます。

地 区	今期業況DI（前期比／ 前期3ヵ月後見込）	増 減	同3ヵ月後見込 （同半年後見込）	増 減	同半年 後見込
横浜	▲27.7（ 5.9ポイント上昇／▲33.1）	↓	▲28.6（▲31.6）	↑	▲25.2
川崎	▲25.2（ 2.2ポイント上昇／▲28.1）	↓	▲31.2（▲25.8）	↓	▲39.8
横須賀	▲25.5（ 9.3ポイント低下／▲25.3）	↑	▲25.3（▲31.6）	↓	▲28.3
平塚	▲20.8（ 6.9ポイント上昇／▲30.3）	↓	▲22.6（▲29.3）	↓	▲27.9
藤沢	▲33.0（21.1ポイント低下／▲15.2）	↑	▲29.3（▲17.3）	↑	▲28.3
相模原	▲31.6（ 5.8ポイント低下／▲30.4）	↑	▲28.9（▲26.1）	↑	▲26.3
厚木	▲23.1（ 2.1ポイント上昇／▲15.2）	↓	▲24.0（▲19.2）	—	▲23.1
足柄上・西湘	▲12.4（11.0ポイント上昇／▲22.6）	↓	▲22.3（▲19.0）	↓	▲25.2

※ 増減は今期業況DI（斜体）と同3ヵ月後見込、同半年後見込との比較。

※ — は、同数字のため、変化なし。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 経営状況では「売上」が上昇。「仕入価格」は依然として厳しい状況 ～

経営状況では、前回低下した「売上」が総合で前期比7.3ポイント上昇の▲6.8となりました。業種別では、建設業が20.0ポイントの大幅な上昇となる3.3になりました。

また「仕入価格」では、総合で同4.6の▲68.8となり、2期連続で上昇しましたが、飲食店は同0.3ポイント低下の▲90.8となるなど、引き続き物価高騰の影響が続いています。

コメントでは、「少しずつ受注が出てきている」「年末に向けて3年ぶりに宴会が増加している。ただし物価高が響いている。食品原価が軒並み高くなっている」などの声が上がっていました。

◇ 人手不足に関する特別調査

1. 全体的特徴 ～ 企業経営への影響では「売上機会の損失」が最多 ～

人手不足に関して調査したところ、企業経営への影響では（表1）では、最も多かった回答が「売上機会の損失」（59.1%）、次に多かったのが「外注費の増加」（43.3%）、「残業時間の増加」（34.1%）が続きました。

また、人手不足への対策については（表2）について尋ねたところ、最も多かった回答は「正社員採用の活動の強化」（60.2%）、次いで「業務効率化」（36.6%）、これに「非正社員採用活動の強化」（31.7%）、「外注の拡大」（25.6%）が続く結果となりました。

表1 人手不足が企業経営に与える影響(全体)

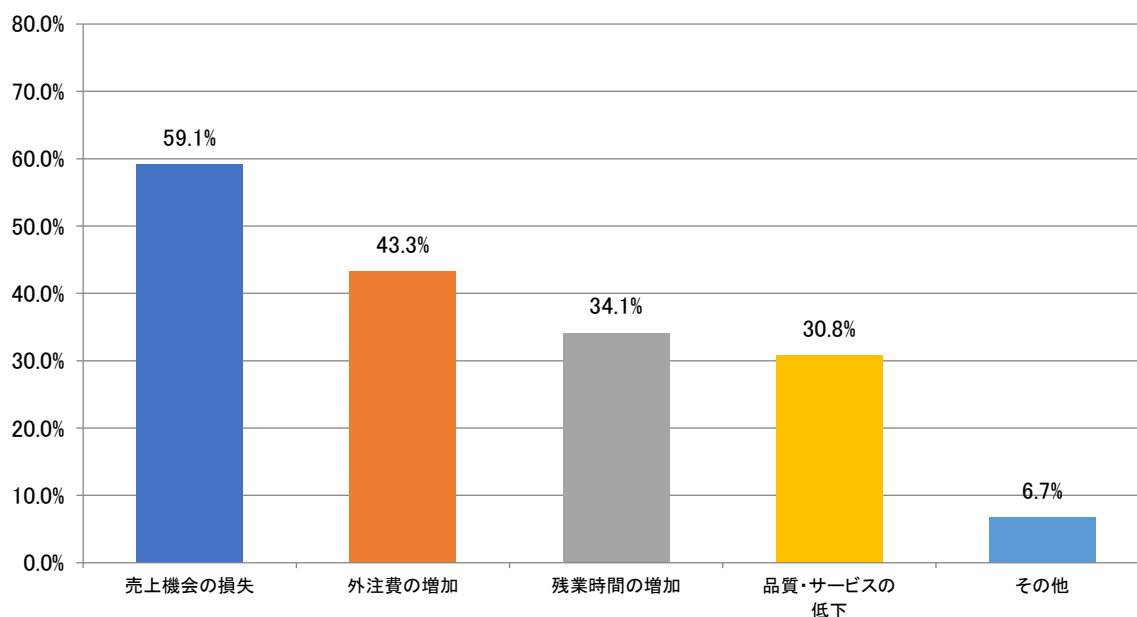
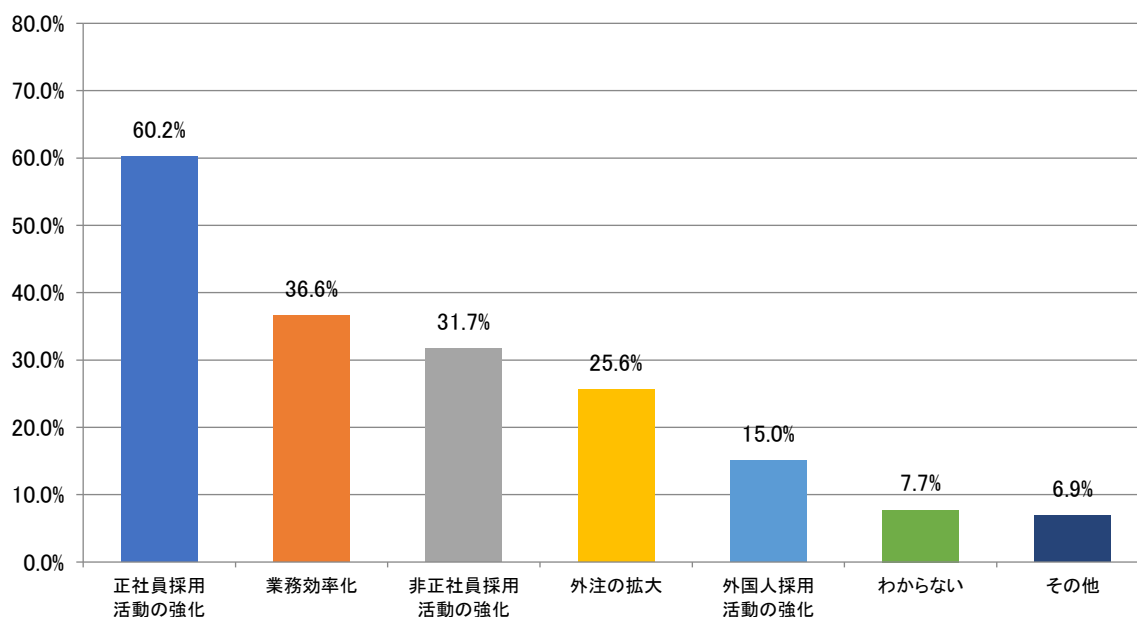


表2 人手不足に対して、検討している対策(全体)



2. 業種別特徴 ～ 対策について、商業・サービス業では、非正社員採用活動がメインと回答 ～

業種別の対策では、製造業（表3）については、全体の傾向と同様「正社員採用活動の強化」（67.6%）が最も多く、次いで「業務効率化」（39.6%）、「非正社員採用活動の強化」（33.3%）となりました。

建設業（表4）については、「正社員採用活動の強化」（75.9%）が最も多く、次いで「外注の拡大」（34.5%）、「業務効率化」（29.3%）となりました。

商業・サービス業（表5）では「非正社員採用活動の強化」（40.3%）が最も多く、次いで「正社員採用活動の強化」（37.7%）と「業務効率化」（37.7%）が同率の結果となりました。

表3 人手不足に対して、検討している対策（製造業）

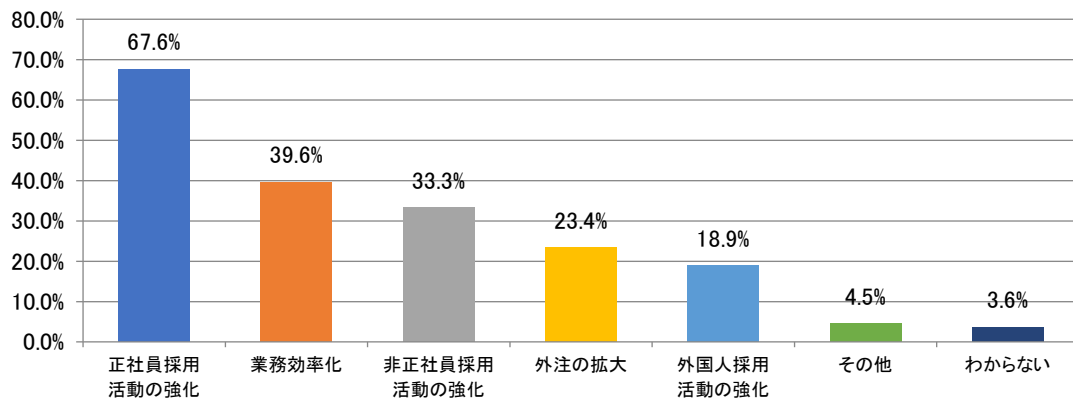


表4 人手不足に対して、検討している対策（建設業）

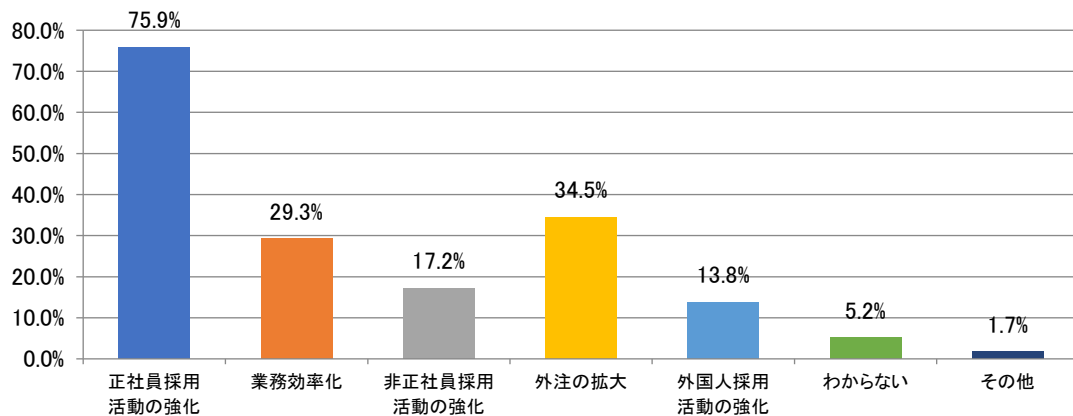
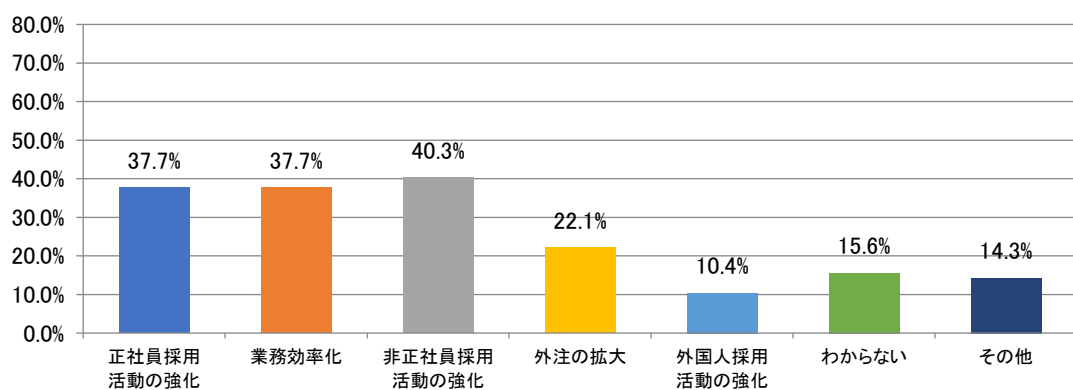


表5 人手不足に対して、検討している対策（商業・サービス業）



【調査要領】

調査時期：令和5年11月

調査対象：県内中小企業2,000社

回答数：1,004社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 木村

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和5年10-12月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは0.3ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和5年10-12月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和5年11月
 - ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
 - ・回答数（率）：1,004社（50.2%） ※詳細は下記の通り
 - ・調査方法：調査対象へ郵送
 - ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析
- ※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	353	64.2%
建設業	250	121	48.4%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	530	44.2%
合計	2,000	1,004	50.2%

2. 調査結果

（1）総合

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲34.2	▲24.6	▲25.6	▲25.3	▲26.9	▲27.8
売上DI	▲22.5	▲8.7	▲14.1	▲6.8	—	—
採算DI	▲38.1	▲24.8	▲29.7	▲25.5	—	—

総合の業況DIは、前期比0.3ポイント上昇の▲25.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比7.3ポイント上昇の▲6.8、また、採算DIは同4.2ポイント上昇の▲25.5となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比1.6ポイント低下の▲26.9、半年後は同2.5ポイント低下の▲27.8を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲30.7	▲28.7	▲27.1	▲24.9	▲24.4	▲23.4
売上DI	▲25.1	▲15.2	▲15.0	▲8.5	—	—
採算DI	▲39.5	▲28.1	▲27.6	▲21.9	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比2.2ポイント上昇の▲24.9となった。

経営状況では、売上DIは、前期比6.5ポイント上昇の▲8.5、採算DIは同5.7ポイント上昇の▲21.9となった。

「社内工程の改善により、採算性向上を模索中である。消耗品の価格上昇が続いているが、製品の直接材料でない為、製品価格UPが難しい。」「国内の売上は下がっているが、海外工場の配当金で黒字になっている。」「日本各地で進んでいる半導体の生産体制増強により、制御盤など設備関係について、発注依頼が増えている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.5ポイント上昇の▲24.4、半年後は同1.5ポイント上昇の▲23.4を見込んでおり、「在庫調整が一巡し、新年からの見通しは期待できる。」「ホテルに納める省エネ電子機器メーカーです。大手ホテルのSDG's意識が上がり、光熱費の削減を真剣に取り組むところが増えている。」「当面の業績は安定している。将来的には、従業員の高齢化が進んでおり、対策が必要。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
一般機械	▲25.6	▲31.4	▲25.6	▲18.5	▲18.5	▲25.0
電気機械	▲23.8	▲28.6	▲37.8	▲26.5	▲22.9	▲21.0
輸送用機械	▲37.7	▲25.9	▲14.5	▲18.2	▲27.8	▲24.1
その他	▲35.8	▲28.0	▲26.8	▲31.7	▲28.6	▲23.5

中分類で見ると、一般機械は前期比7.1ポイント上昇の▲18.5、電気機械は同11.3ポイント上昇の▲26.5、輸送用機械は同3.7ポイント低下の▲18.2となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が今期と同じ▲18.5、電気機械が現在比3.6ポイント上昇の▲22.9、輸送用機械は同9.6ポイント低下の▲27.8、半年後は一般機械が同6.5ポイント低下の▲25.0、電気機械が同5.5ポイント上昇の▲21.0、輸送用機械は同5.9ポイント低下の▲24.1を見込んでいる。

<建設業>

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲6.2	▲6.6	▲8.3	▲0.8	▲6.8	▲17.9
売上DI	▲5.4	▲15.0	▲16.7	3.3	—	—
採算DI	▲25.9	▲21.8	▲19.2	▲18.3	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比7.5ポイント上昇の▲0.8となった。

経営状況では、売上DIは前期比20.0ポイント上昇の3.3、採算DIは同0.9ポイント上昇の▲18.3となった。

「需要は堅調である。コストプッシュ要因をいかに価格転嫁していくか。」「少しずつ受注が出てきている。」「補助金が出た為、受注が上昇した。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比6.0ポイント低下の▲6.8、半年後は同17.1ポイント低下の▲17.9を見込んでおり、「土地の値上がり、住宅ローンの上昇。資材の値上がりにより相当悪くなる状況。」「人手不足が深刻。」「今後業績は不調になりそうです。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲42.5	▲26.0	▲28.4	▲31.0	▲33.1	▲33.0
売上DI	▲24.6	▲3.0	▲13.0	▲7.9	—	—
採算DI	▲39.8	▲23.3	▲33.5	▲29.4	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比2.6ポイント低下の▲31.0となった。

経営状況では、売上DIは前期比5.1ポイント上昇の▲7.9、採算DIは同4.1ポイント上昇の▲29.4となった。「今期（10～12月）前期（7～9月）の比較で、時期的に売上が上がるだけであって、決して景気が良くなってきたということではない。」「年末に向けて3年ぶりに宴会が増加している。ただし物価高が響いている。食品原価が軒並み高くなっている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.1ポイント低下の▲33.1、半年後は同2.0ポイント低下の▲33.0を見込んでいる。「仕入高（円安）が続いており、値上げが追い付いていないので、大変厳しい状況が続いています。」「円安により輸入コストが30%程度高くなり、業績に悪影響を受けています。」「店舗の客足が伸びない。キャッシュレス利用も全体の1/2～2/3を占めており、資金繰りは苦しい。年末年始の売上・利益が立たないと、3月まではさらに苦しくなる。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
卸売業	▲45.6	▲23.3	▲26.1	▲32.0	▲42.7	▲37.3
小売業	▲45.7	▲35.9	▲40.8	▲43.0	▲44.0	▲45.4
飲食店	▲50.0	▲19.1	▲19.4	▲9.2	▲6.3	▲6.3
サービス業	▲31.3	▲15.2	▲14.3	▲21.2	▲21.2	▲22.8

業種別では、卸売業は前期比5.9ポイント低下の▲32.0、小売業は同2.2ポイント低下の▲43.0、飲食店は同10.2ポイント上昇の▲9.2、サービス業は同6.9ポイント低下の▲21.2となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比10.7ポイント低下の▲42.7、小売業は同1.0ポイント低下の▲44.0、飲食店は同2.9ポイント上昇の▲6.3、サービス業は今期と同じ▲21.2、半年後では卸売業が同5.3ポイント低下の▲37.3、小売業は同2.4ポイント低下の▲45.4、飲食店は同2.9ポイント上昇の▲6.3、サービス業は同1.6ポイント低下の▲22.8を見込んでいる。

（3）規模別特徴

		令和5年				令和6年	
		1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
中規模	業況DI	▲29.3	▲18.8	▲21.1	▲20.0	▲21.2	▲22.7
	売上DI	▲14.9	▲5.2	▲8.3	4.5	—	—
	採算DI	▲34.6	▲25.2	▲28.7	▲18.5	—	—
小規模	業況DI	▲40.0	▲31.4	▲30.9	▲31.3	▲33.6	▲33.8
	売上DI	▲31.7	▲12.9	▲21.2	▲19.7	—	—
	採算DI	▲42.3	▲24.3	▲31.0	▲33.5	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比1.1ポイント上昇の▲20.0、小規模企業は同0.4ポイント低下の▲31.3となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比12.8ポイント上昇の4.5、採算DIが同10.2ポイント上昇の▲18.5、小規模企業は売上DIが同1.5ポイント上昇の▲19.7、採算DIが同2.5ポイント低下の▲33.5となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比1.2ポイント低下の▲21.2、半年後が同2.7ポイント低下の▲22.7、小規模企業は3か月後が同2.3ポイント低下の▲33.6、半年後が同2.5ポイント低下の▲33.8を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和5年				令和6年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
横浜	▲33.9	▲25.8	▲33.6	▲27.7	▲28.6	▲25.2
川崎	▲30.1	▲29.3	▲27.4	▲25.2	▲31.2	▲39.8
横須賀	▲39.6	▲20.2	▲16.2	▲25.5	▲25.3	▲28.3
平塚	▲39.4	▲36.4	▲27.7	▲20.8	▲22.6	▲27.9
藤沢	▲29.3	▲9.6	▲11.9	▲33.0	▲29.3	▲28.3
相模原	▲42.6	▲24.2	▲25.8	▲31.6	▲28.9	▲26.3
厚木	▲25.0	▲22.1	▲25.2	▲23.1	▲24.0	▲23.1
足柄上・西湘	▲35.0	▲25.5	▲23.4	▲12.4	▲22.3	▲25.2

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比5.9ポイント上昇の▲27.7）、川崎地区（同2.2ポイント上昇の▲25.2）、横須賀地区（同9.3ポイント低下の▲25.5）、平塚地区（同6.9ポイント上昇の▲20.8）、藤沢地区（同21.1ポイント低下の▲33.0）、相模原地区（同5.8ポイント低下の▲31.6）、厚木地区（同2.1ポイント上昇の▲23.1）、足柄上・西湘地区（同11.0ポイント上昇の▲12.4）となり5地区で上昇し、3地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比0.9ポイント低下の▲28.6）、川崎地区（同6.0ポイント低下の▲31.2）、横須賀地区（同0.2ポイント上昇の▲25.3）、平塚地区（同1.8ポイント低下の▲22.6）、藤沢地区（同3.7ポイント上昇の▲29.3）、相模原地区（同2.7ポイント上昇の▲28.9）、厚木地区（同0.9ポイント低下の▲24.0）、足柄上・西湘地区（同9.9ポイント低下の▲22.3）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比2.5ポイント上昇の▲25.2）、川崎地区（同14.6ポイント低下の▲39.8）、横須賀地区（同2.8ポイント低下の▲28.3）、平塚地区（同7.1ポイント低下の▲27.9）、藤沢地区（同4.7ポイント上昇の▲28.3）、相模原地区（同5.3ポイント上昇の▲26.3）、厚木地区（今期と同じ▲23.1）、足柄上・西湘地区（同12.8ポイント低下の25.2）となり3地区で上昇し、1地区で前期と同じ、4地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 木村

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和5年10月～12月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		353	121	105	222	65	138	530	1,004
業況判断	現在の業況	▲24.9	▲0.8	▲32.0	▲43.0	▲9.2	▲21.2	▲31.0	▲25.3
	3ヶ月後の業況	▲24.4	▲6.8	▲42.7	▲44.0	▲6.3	▲21.2	▲33.1	▲26.9
	半年後の業況	▲23.4	▲17.9	▲37.3	▲45.4	▲6.3	▲22.8	▲33.0	▲27.8
経営状況	売上	▲8.5	3.3	▲11.4	▲19.5	20.0	0.0	▲7.9	▲6.8
	採算	▲21.9	▲18.3	▲26.7	▲36.2	▲29.2	▲20.6	▲29.4	▲25.5
	引き合い／客数	▲7.2	▲0.8	▲11.5	▲39.1	12.3	▲9.4	▲19.5	▲13.0
	単価	13.4	12.7	2.9	▲10.1	6.2	5.1	▲1.5	5.4
	仕入価格	▲62.5	▲69.2	▲65.4	▲73.6	▲90.8	▲68.9	▲72.9	▲68.8
	資金繰り	▲24.4	▲9.1	▲16.3	▲28.8	▲36.9	▲16.9	▲24.2	▲22.5
	残業	▲8.5	▲10.9	▲9.5	▲9.7	▲7.9	▲9.5	▲9.4	▲9.3
	設備稼働	▲12.3	▲2.6	—	—	—	—	—	▲9.9
前期経営実績	売上水準	▲23.3	▲3.3	▲21.9	▲35.5	▲12.3	▲15.2	▲24.6	▲21.6
	利益水準	▲4.5	5.9	5.8	▲26.4	▲33.8	0.0	▲14.0	▲8.3
	在庫	9.5	▲5.4	14.9	0.5	1.6	▲13.3	0.0	2.8
	投資	▲10.2	▲8.6	▲6.9	▲13.5	▲6.3	▲5.3	▲9.2	▲9.5
	雇用状況	▲21.6	▲48.8	▲19.4	▲24.3	▲47.7	▲38.7	▲30.1	▲29.3

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和5年7月～9月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		351	120	112	223	63	133	531	1,002
業況判断	現在の業況	▲27.1	▲8.3	▲26.1	▲40.8	▲19.4	▲14.3	▲28.4	▲25.6
	3ヶ月後の業況	▲23.3	▲12.7	▲31.2	▲43.9	▲10.0	▲21.2	▲31.4	▲26.3
	半年後の業況	▲19.5	▲16.9	▲34.6	▲41.0	▲21.7	▲22.1	▲32.5	▲26.0
経営状況	売上	▲15.0	▲16.7	▲13.4	▲23.4	11.1	▲6.8	▲13.0	▲14.1
	採算	▲27.6	▲19.2	▲34.8	▲39.4	▲25.4	▲26.3	▲33.5	▲29.7
	引き合い／客数	▲14.7	▲0.8	▲8.9	▲41.4	▲1.6	▲8.3	▲21.5	▲16.6
	単価	11.2	9.2	7.2	▲13.6	8.1	▲6.1	▲4.8	2.4
	仕入価格	▲68.1	▲74.2	▲78.4	▲78.1	▲90.5	▲65.6	▲76.6	▲73.4
	資金繰り	▲27.6	▲12.5	▲20.5	▲33.6	▲33.9	▲22.0	▲27.9	▲26.0
	残業	▲16.7	▲2.5	▲14.5	▲14.4	▲10.0	▲9.1	▲12.6	▲12.8
	設備稼働	▲17.1	▲4.3	—	—	—	—	—	▲13.8
前期経営実績	売上水準	▲18.5	▲6.7	▲24.1	▲29.1	▲7.9	▲13.6	▲21.6	▲18.7
	利益水準	▲2.6	0.8	▲9.8	▲23.1	▲12.7	4.5	▲12.1	▲7.3
	在庫	9.9	▲1.9	16.4	0.9	▲1.6	▲10.4	1.4	4.0
	投資	▲8.6	▲3.5	▲12.0	▲19.5	▲4.8	▲3.3	▲12.2	▲9.9
	雇用状況	▲21.5	▲50.9	▲13.6	▲22.4	▲45.9	▲35.1	▲26.6	▲27.7

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		181	172	60	61	296	234	537	467
業況判断	現在の業況	▲21.0	▲29.1	1.7	▲3.4	▲23.9	▲39.9	▲20.0	▲31.3
	3ヶ月後の業況	▲19.6	▲29.6	0.0	▲13.8	▲26.6	▲41.5	▲21.2	▲33.6
	半年後の業況	▲21.9	▲25.0	▲5.0	▲31.6	▲26.9	▲40.8	▲22.7	▲33.8
経営状況	売上	0.0	▲17.4	10.0	▲3.3	6.1	▲25.6	4.5	▲19.7
	採算	▲19.3	▲24.7	▲8.3	▲28.3	▲20.1	▲41.2	▲18.5	▲33.5
	引き合い／客数	▲1.7	▲13.0	6.7	▲8.3	▲8.8	▲33.0	▲4.7	▲22.5
	単価	19.3	7.0	8.3	17.2	6.8	▲12.1	11.3	▲1.3
	仕入価格	▲63.5	▲61.4	▲60.0	▲78.3	▲68.4	▲78.7	▲65.8	▲72.2
	資金繰り	▲22.2	▲26.7	▲3.3	▲14.8	▲20.1	▲29.6	▲18.9	▲26.6
	残業	▲3.9	▲13.4	▲13.6	▲8.3	▲6.8	▲12.7	▲6.6	▲12.4
	設備稼働	▲8.3	▲16.5	1.7	▲7.1	—	—	▲5.9	▲14.2
前期経営実績	売上水準	▲20.6	▲26.2	10.0	▲16.4	▲17.3	▲33.8	▲15.4	▲28.7
	利益水準	0.0	▲9.4	25.0	▲13.6	▲4.4	▲26.2	0.4	▲18.4
	在庫	16.2	2.4	▲8.6	▲1.9	0.7	▲0.9	5.0	0.2
	投資	▲6.1	▲14.6	0.0	▲17.9	▲3.5	▲16.2	▲4.0	▲15.8
	雇用状況	▲23.8	▲19.3	▲55.0	▲42.6	▲38.6	▲19.2	▲35.4	▲22.3

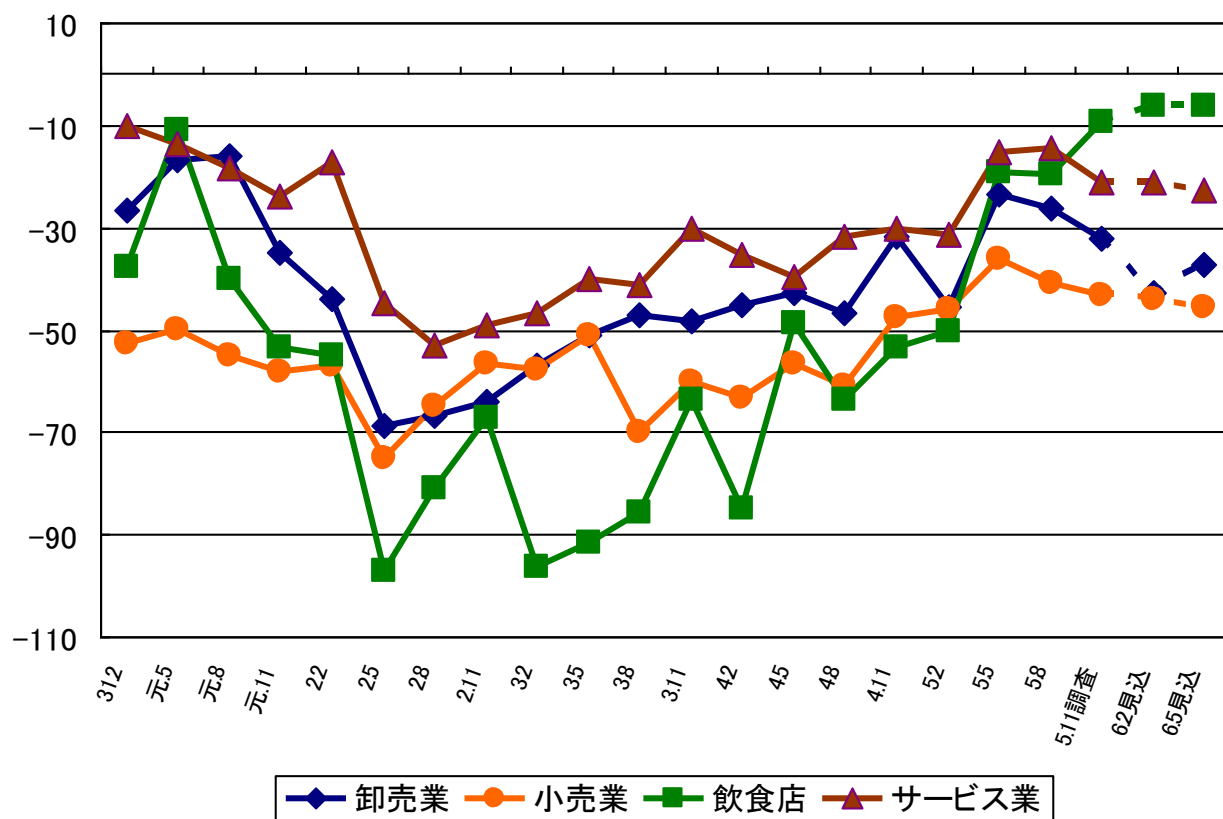
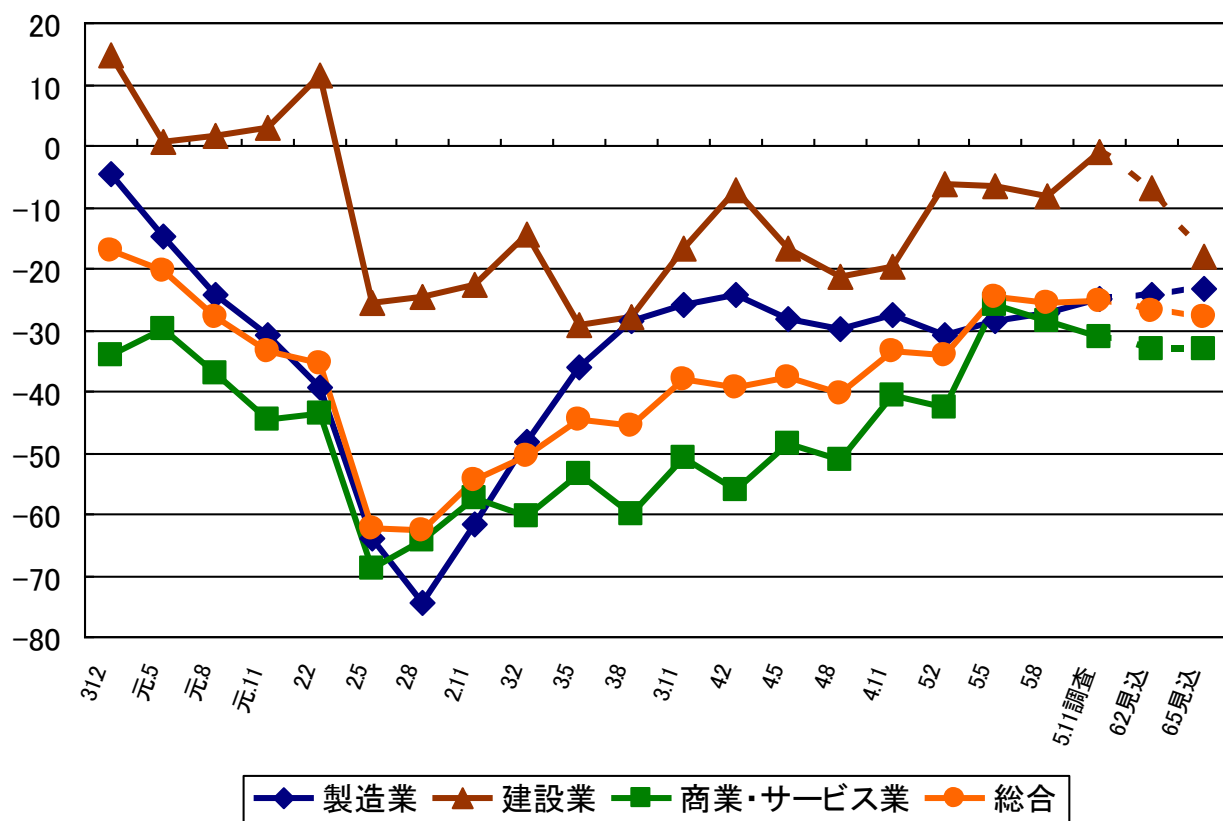
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		262	127	100	107	100	98	105	105	1,004
業況判断	現在の業況	▲27.7	▲25.2	▲25.5	▲20.8	▲33.0	▲31.6	▲23.1	▲12.4	▲25.3
	3ヶ月後の業況	▲28.6	▲31.2	▲25.3	▲22.6	▲29.3	▲28.9	▲24.0	▲22.3	▲26.9
	半年後の業況	▲25.2	▲39.8	▲28.3	▲27.9	▲28.3	▲26.3	▲23.1	▲25.2	▲27.8
経営状況	売上	▲9.2	▲7.9	▲12.0	7.5	▲21.0	▲9.2	▲4.8	4.8	▲6.8
	採算	▲26.8	▲30.2	▲33.0	▲14.4	▲37.0	▲20.4	▲26.7	▲12.5	▲25.5
	引き合い／客数	▲19.1	▲10.7	▲19.2	▲4.7	▲15.2	▲19.4	▲6.7	▲1.0	▲13.0
	単価	6.5	3.3	0.0	5.7	9.1	3.1	▲1.0	15.4	5.4
	仕入価格	▲71.3	▲63.7	▲65.7	▲67.9	▲72.0	▲67.3	▲65.4	▲74.0	▲68.8
	資金繰り	▲19.8	▲21.4	▲27.6	▲20.8	▲17.3	▲29.9	▲19.0	▲28.6	▲22.5
	残業	▲13.1	▲2.4	▲7.1	▲10.7	▲11.0	▲14.9	▲9.6	▲1.9	▲9.3
	設備稼働	▲13.4	1.7	▲9.3	▲4.3	▲18.6	▲11.5	▲10.3	▲11.4	▲9.9
前期経営実績	売上水準	▲24.5	▲23.0	▲20.0	▲24.3	▲23.0	▲15.5	▲21.9	▲15.2	▲21.6
	利益水準	▲11.2	▲8.7	▲15.0	▲13.3	4.0	▲5.1	▲1.0	▲11.7	▲8.3
	在庫	3.2	4.1	▲5.2	0.0	1.0	7.2	7.8	2.9	2.8
	投資	▲11.6	▲6.4	▲6.1	▲8.8	▲9.0	▲13.4	▲9.7	▲8.7	▲9.5
	雇用状況	▲27.1	▲32.5	▲43.4	▲33.7	▲33.0	▲26.5	▲19.4	▲22.1	▲29.3

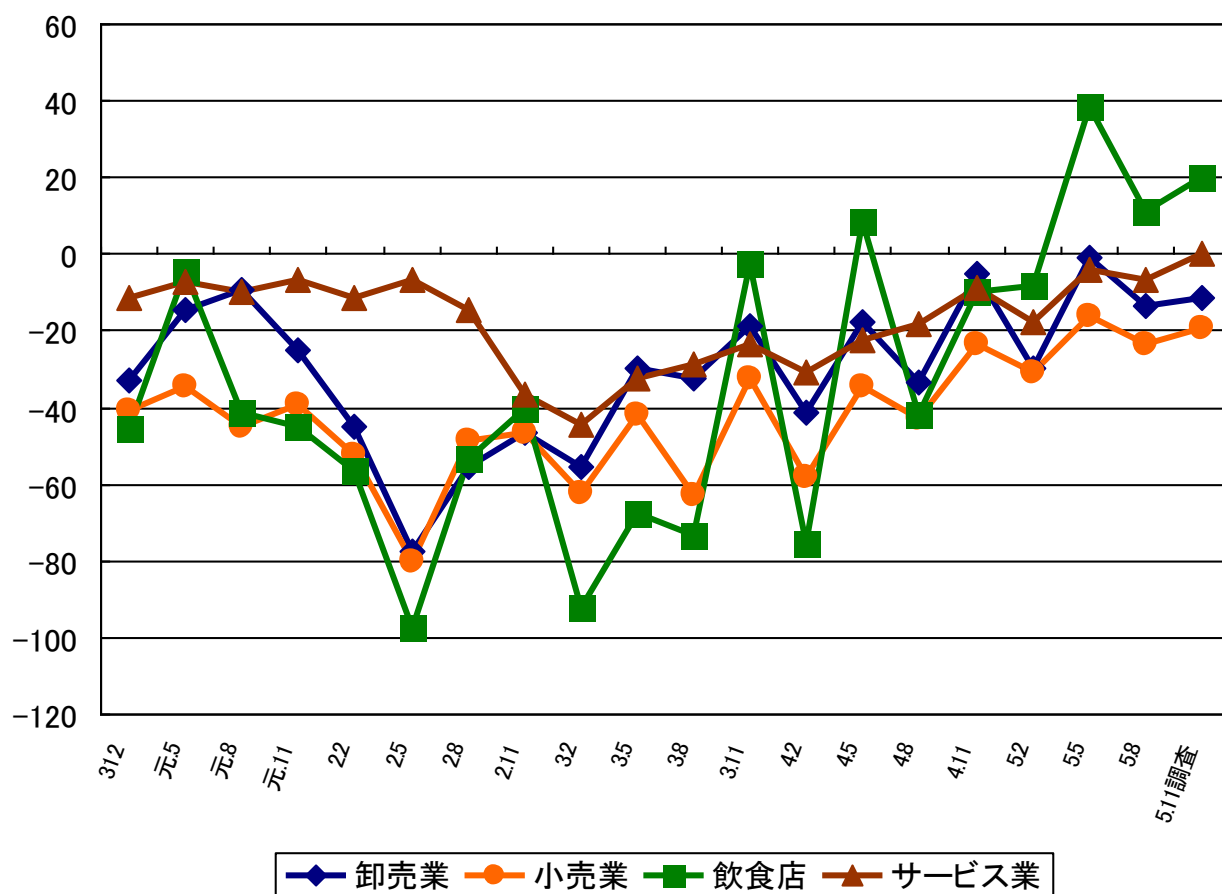
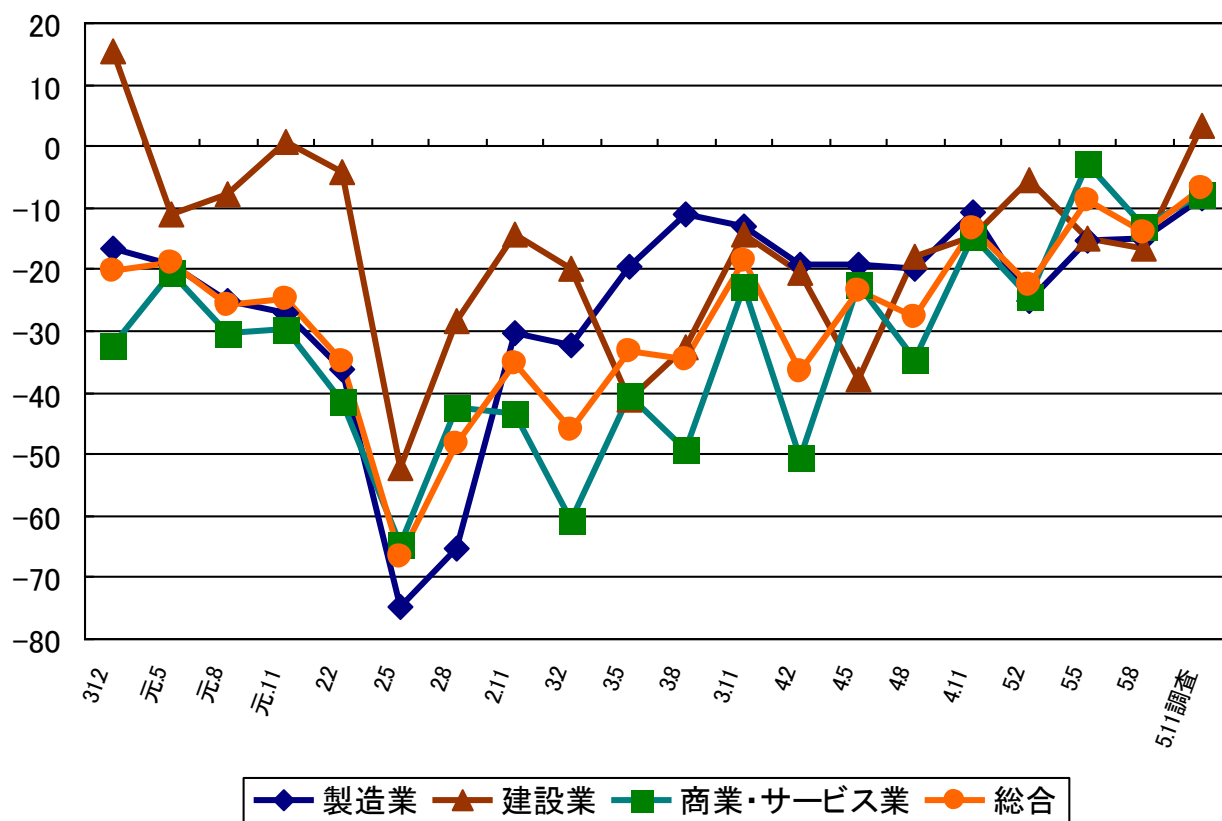
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		92	83	55	123	353
業況判断	現在の業況	▲18.5	▲26.5	▲18.2	▲31.7	▲24.9
	3ヶ月後の業況	▲18.5	▲22.9	▲27.8	▲28.6	▲24.4
	半年後の業況	▲25.0	▲21.0	▲24.1	▲23.5	▲23.4
経営状況	売上	▲15.2	▲6.0	▲16.4	▲1.6	▲8.5
	採算	▲18.7	▲24.1	▲25.5	▲21.3	▲21.9
	引き合い／客数	▲7.8	▲2.4	▲12.7	▲7.4	▲7.2
	単価	20.7	12.0	11.1	9.8	13.4
	仕入価格	▲58.7	▲56.6	▲66.7	▲67.5	▲62.5
	資金繰り	▲21.7	▲15.7	▲27.3	▲31.1	▲24.4
	残業	▲13.0	▲3.7	▲12.7	▲6.6	▲8.5
	設備稼働	▲12.1	▲10.8	▲14.5	▲12.4	▲12.3
前期経営実績	売上水準	▲13.2	▲30.1	▲14.5	▲30.1	▲23.3
	利益水準	2.2	▲1.2	▲7.3	▲10.7	▲4.5
	在庫	7.8	16.9	9.4	5.7	9.5
	投資	▲9.8	▲3.6	▲9.1	▲15.6	▲10.2
	雇用状況	▲29.3	▲24.1	▲23.6	▲13.1	▲21.6

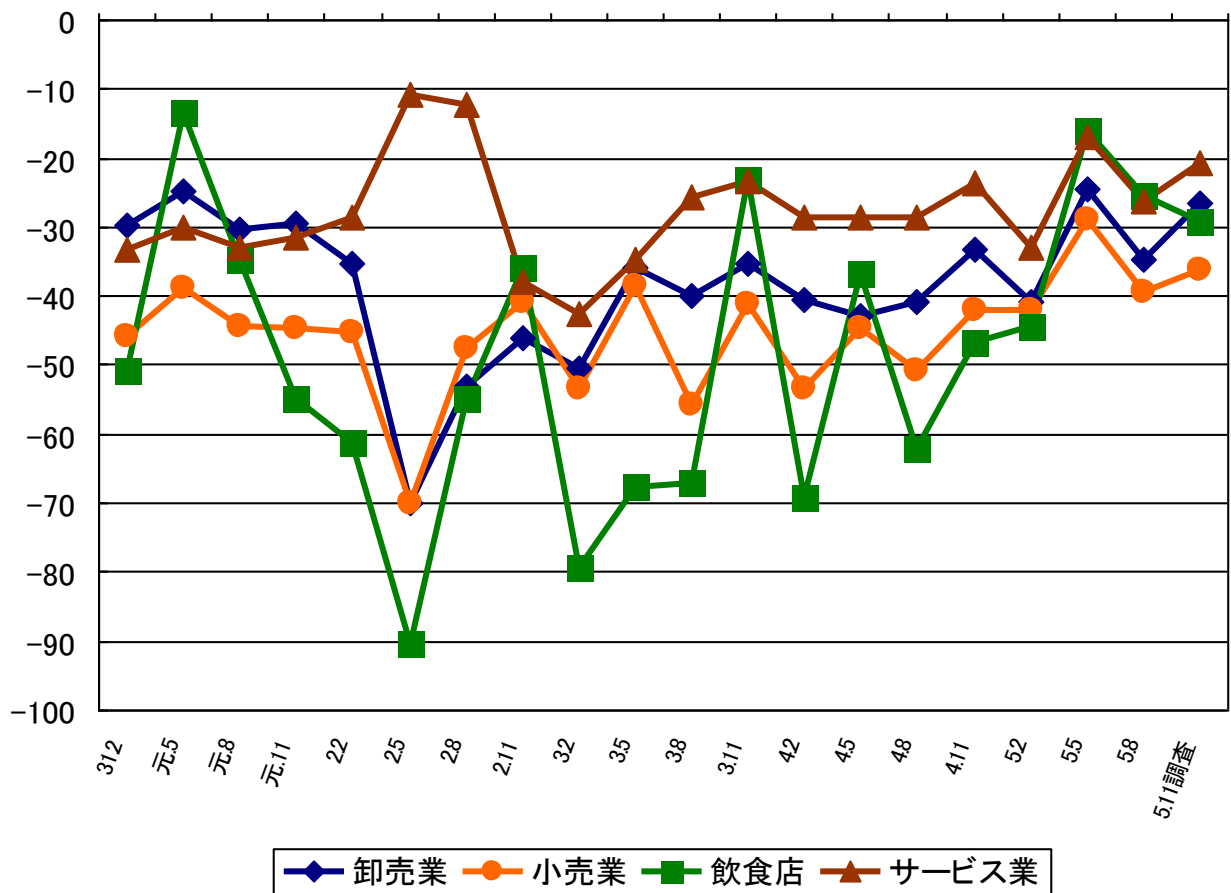
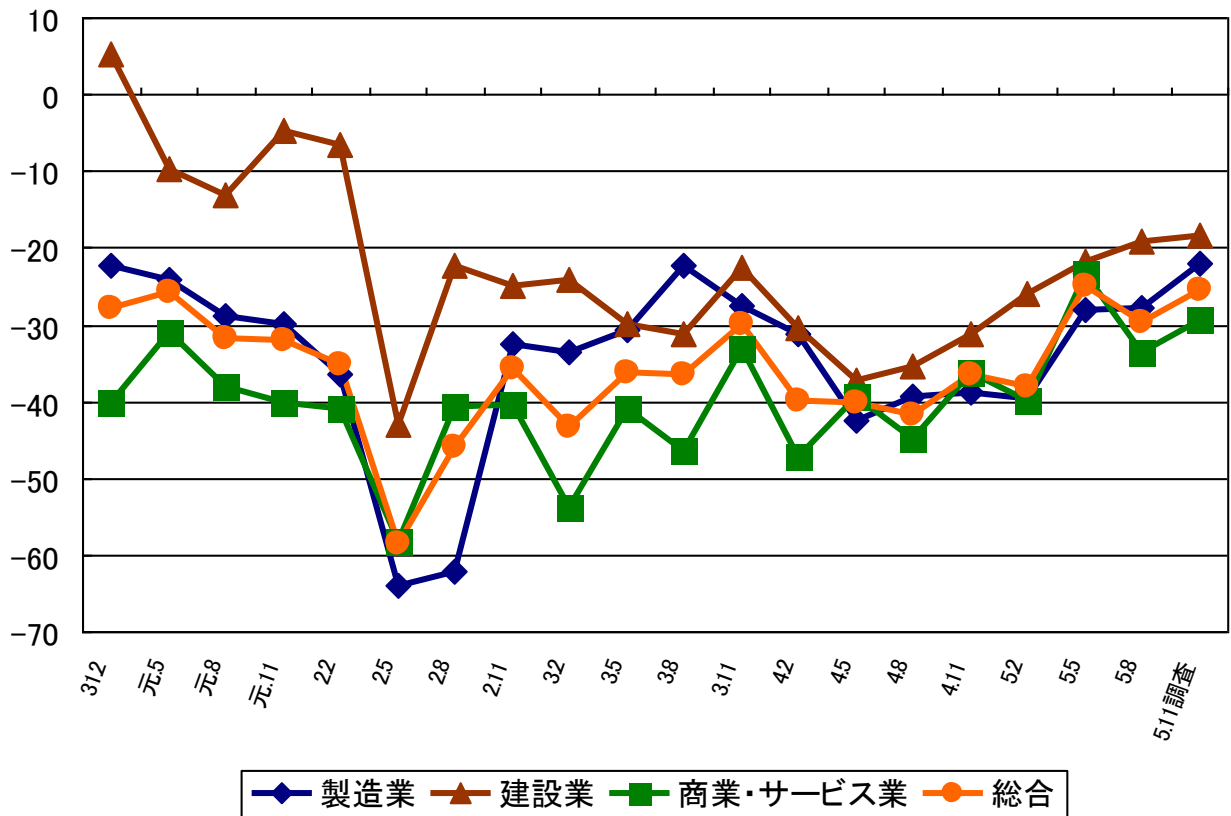
業況DIの推移



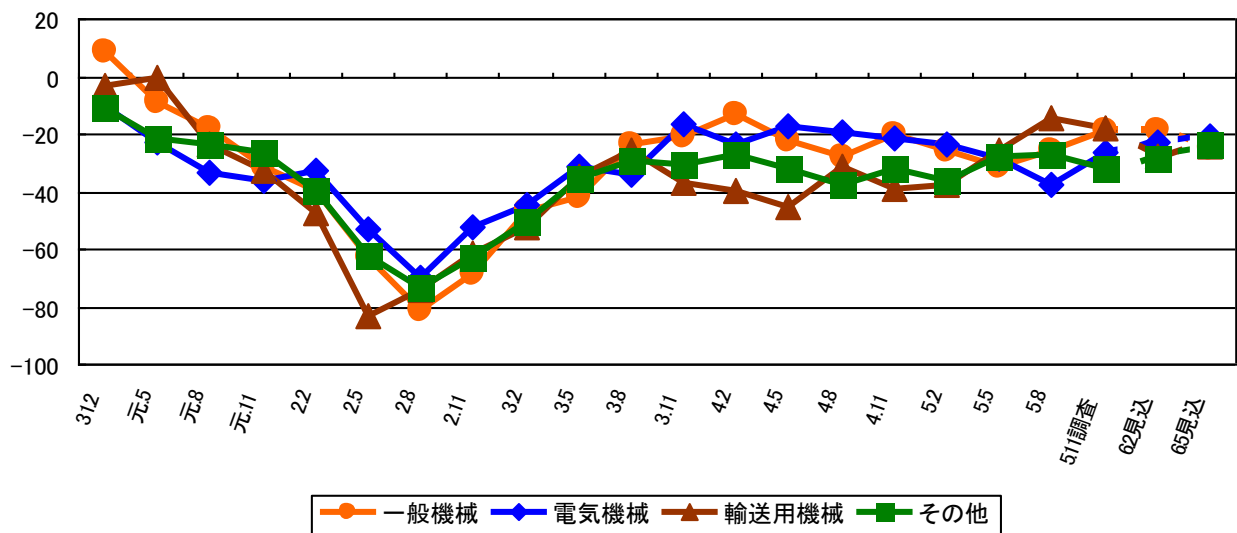
売上DIの推移



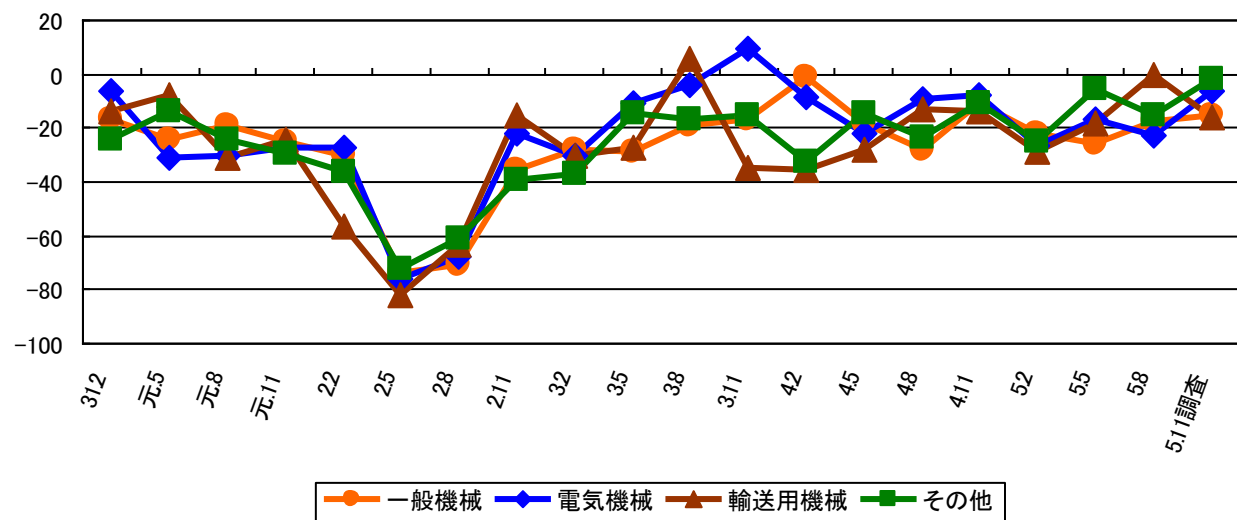
採算DIの推移



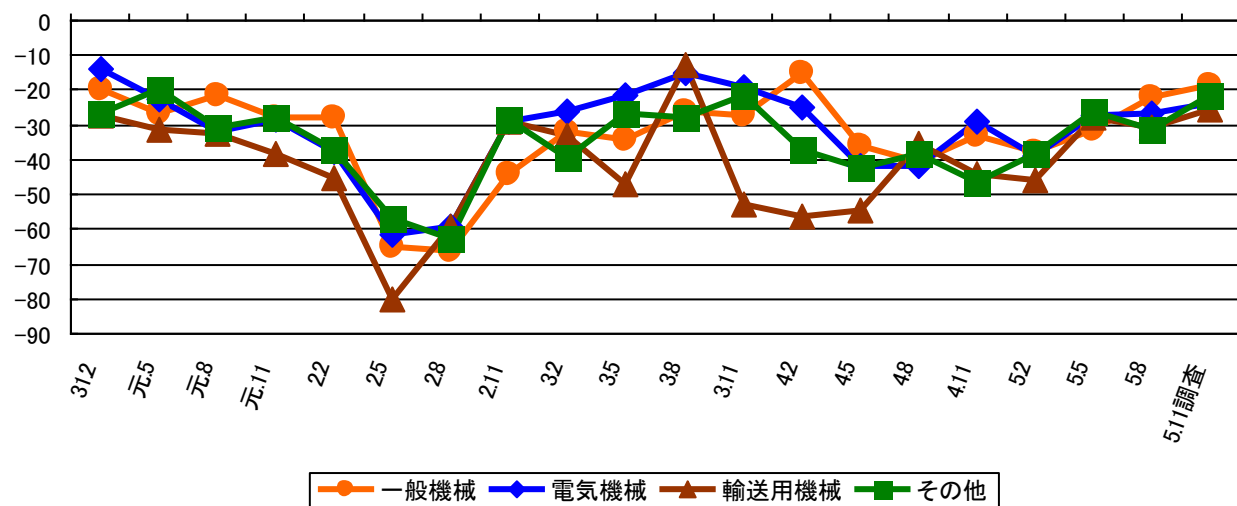
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

「国内の売上は下がっているが、海外工場の配当金で黒字になっている。」
「日本各地で進んでいる半導体の生産体制増強により、制御盤など設備関係について、発注依頼が増えている。」
「在庫調整が一巡し、新年からの見通しは期待できる。」
「エアコンの部品となる鋼管の製造が主製品で、今年はメーカーの売上が伸び悩んでいた。ただし、メーカーの在庫が無くなったため、今後は生産が伸びていく予定。」
「社内工程の改善により、採算性向上を模索中である。消耗品の価格上昇が続いているが、製品の直接材料でない為、製品価格UPが難しい。」
「賃金の上昇、光熱費、大豆の高騰、物流費の上昇、全てにおいて高くなり、企業努力にも限界を感じています。今後の経営が心配です。」
「委託加工である学校給食の加工代金が上昇。ただし、まれにみる値上げが行われたため、この先の受注が心配。」
「ホテルに納める省エネ電子機器メーカーです。大手ホテルのSDG's意識が上がり、光熱費の削減を真剣に取り組むところが増えている。」
「原材料費の値上がり、光熱費等の高騰が続き、利益確保が難しい。12月までは現状維持と思われるが、1月からの状況は不透明です。」
「技術者不足で仕事があっても作業が出来ない。」
「原材料価格が高騰し、支払いが追い付かない。売上は分からないが、電子マネーが増え、実質は減っている。」
「当面の業績は安定している。将来的には、従業員の高齢化が進んでおり、対策が必要。」

<建設業>

「来年4月からの残業規制で、工事の進捗、受注が心配である。」
「高齢化が進んで、若者雇用が確保されない状況です。」
「コロナの時みんな止まったので、発注等が遅くなっている。ようやく引合が出てきている。技術者不足で、役所の工事の受注が出来ない。」
「少しずつ受注が出てきている。」
「コロナの5類に寄り、引合が増えているが、部品、材料の価格上昇が気になる。」
「売上に対して外注費など経費が増えて、利益が増えない状況です。」
「新規ビジネス企画により、順調に推移。」
「需要は堅調である。コストプッシュ要因をいかに価格転嫁していくか。」
「補助金が出た為、受注が上昇した。」
「人手不足が深刻。」
「公共工事の発注件数が減っている。予定はあるが発注されない。」
「建設業は全てにおいて完全週休2日制にならない限り、人手不足は解消できないと思います。このままだと、建設業は衰退の一途です。また、インボイス制度が職人廃業を招いている。」
「土地の値上がり、住宅ローンの上昇。資材の値上がりにより相当悪くなる状況。」
「今後業績は不調になりそうです。」

<卸売業>

「円安で仕入があがっているので、3か月位で価格が高くなって大変です。」
「仕入高（円安）が続いており、値上げが追い付いていないので、大変厳しい状況が続いています。」
「思ったよりも円安が長引いており、このまま円安状況が続くようであれば、仕入価格に影響が出て、利益にも影響が出るものと懸念している。」
「円安のために輸入仕入を控え、在庫を売り尽くしている品目もある。現況では新たに仕入れれば売上に転嫁しきれず、赤字が増えていくというジレンマに陥っている。円安がさらに進めば、致命的なダメージを被る。」
「働き方改革で、中小企業は黒字でも、人手不足で廃業している会社が増えています。仕入は、インフレで値上がりしています。（毎月。）」
「売上高は変わらないが、仕入価格が高くなっているため、利益率は悪くなっている。今後も円安で仕入価格が高くなっていくので、値上げをしなくてはならない。」
「円安により輸入コストが30%程度高くなり、業績に悪影響を受けています。」
「商品原価率の上昇や、仕入先の欠品が増えていることが問題。仕入先開拓や新商品開発が必要。」
「エンドユーザーの大型ライバルに抗する所が減っている。仕入先の物資による単価の格差が、戦力に影響。付加価値勝負の限界。適応できるユーザーの減少。」
「為替が円安のため、仕入価格が高くなっており、利益率を下げている。円高になっている。」

<小売業>

「インボイス制度により、会社からの注文激減。営業が成り立たなくなった!」
「いつまでも続く熱帯気候（温暖化）による四季の変化による季節商品の販売不良。物価高で当店の扱いが高齢者向けの物なので、客が買う意欲がない。商店街に年寄りが歩いていない。また、少子化で子供数が減少。」
「今期（10～12月）前期（7～9月）の比較で、時期的に売上が上がるだけであって、決して景気が良くなってきたということではない。」
「ネットを利用したの購買が、実店舗の来店を必要としなくなっている。（小売全般か?）キャッシュレス事業が12月に2週間行われるので、この時に売上増を期待しているが、…大型店に行ってしまう感もある。」
「ネット通販が低調。実店舗はかながわPayの恩恵を受けましたが、予想より早くポイント付与が終了して、9月中旬からその反動で、客足が激減しました。」
「採算（利益率）に関して申し上げたいことは、我々小売業はキャッシュレス化が進み、便利な反面、手数料負担がじわじわ響く。スマホ決済、クレカ、3～4%引かれます。「かながわPay」にしても結局我々小売店が参加して良かったのか?? キャッシュレス決済をしている店にもポイントを付与してほしいです。」
「衣料品業界は天候特に気温により売上が大きく影響を受ける。特に真夏日が続き、10月20日以降影響が顕著にあらわれた。今後も気温の高さが続くことが予想されるので、冬物商戦は苦戦が予想される。」
「インボイス、社会保険料の負担増加など、お客さまの可処分所得が下がっている状況が、売上に現れています。値上げで売上を何とか確保できているものの、行政の対策が全く見えず、今後は厳しくなる予想。賃上げができるような環境にないが、人手確保の為にやむを得ず、賃上げを実行している。」
「平均すると売上高は平行線であったが、利益率の良い商品販売ができ、採算が取れた。今後は、補助金等を活用出来る案件に期待したい。消費を喚起する政策を打ち出してほしい。」
「商品の仕入が高くなり、販売価格に2～3ヶ月遅れになっている。人材不足、売上が上がらず、人材をなかなか取れない、または入らない。パート給与もどんどん上がり、なかなか追いつけなくなっている。」
「店舗の客足が伸びない。キャッシュレス利用も全体の1/2～2/3を占めており、資金繰りは苦しい。年末年始の売上・利益が立たないと、3月まではさらに苦しくなる。」
「インボイス関連の商品が売れた様子。その関係で業績が良かったと思う。今後に関しては、引き続きエネルギーの高騰や、物流の2024年問題による影響が心配。」
「人員不足の為、注文を受けられなくなってきた。」

<飲食店>

「年末に向けて3年ぶりに宴会が増加している。ただし物価高が響いている。食品原価が軒並み高くなっている。」
「すべての材料が高くなり単価が低いので、利益が少ない。ネギ1本100円、油代は上がるし、利益がほとんどなくなっている。」
「仕入価格が高くなっているのので、この夏までは赤字でした。全メニューを50円ずつ値上げしたので、売上は上がっています。」
「肉の仕入が高くなり、商品単価を上げたいが、客離れが発生するので上げられない。その為、利益確保が出来ず、赤字が続く。今後が心配。今のところ手の打ちようがないのが現状。」
「物価の高騰、最低賃金の値上げにより、利益が出しづらい構造になった。売価上げれば、来客が減る。負の連鎖。平均客単価が下がり、客数は横ばいの為売上利益ともに厳しい状況です。食材原価は上がり続け、内容を変更して提供するわけにもいかず、資金繰りも常に追いつかない状況が続いております。現場スタッフにも修繕などの依頼に関して早急に投資できず、従業員も不安になっております。正直何とかしてほしいです。」
「人数は確保できているが、103万円等の壁により、勤務日数を減らすため、若干不足。（最低賃金を上げるなら、壁の金額も上げてほしい。）」
「人材費、仕入すべて高くなり、返済が厳しい。コロナ融資の返済も始まり、もう店を譲ることを考えている。」

<サービス業>

「材料費（仕入）の値上げが続くが、売価に転嫁できていない。」
「需要が多いのに人手不足のため供給ができない。このまま行政からの報酬が上がらず、賃上げができないと、ますます人の供給不足に陥り、業界そのものが無くなってしまう危機感がある。」
「物価の高騰、人件費の上昇、人材不足、従業員の高齢化が進むなど、業績不調の要因が多い。」
「人手不足により、断っている。」
「インボイスのせいで、必要経費が増えている。」
「県の入札案件も10年前と比較して1桁低くなっているの1回の案件というよりかは10回の入札でないと採算が取れない。映像制作は、単価が下がっているので有無も言わず、意味不明な低価格に合わせないと仕事が取れないので頭が痛い。」
「受注に波がある。（単価は高め。）人が少し余る。人件費が高くなり、利益が出にくくなった。」
「客先が中国からの仕事が多いので、対中国の情勢が悪く、見通し難。国内案件は増えているようにも感じるが、技術者不足で手が出せない。」
「春に続き秋にも値上げを実施。増加する人件費や、エネルギーコストを吸収出来るまでにはなっている。エネルギーコストに対する国からの補助金が終わった時には、更なる値上げも視野に入れる。」